

「文化芸術活動の創造的循環の実現に向けて」概要（第4期文化経済部会報告書、令和7年3月）

資料 1

趣 旨

○文化と経済の好循環に資する事項の検討のために、第2期から議論を続けている「文化芸術団体に資金が流れる方法」、「場の活性化」、「人材育成」の3つの論点のうち、第4期に中心的に議論した**資金面及び場の活性化**に関する**審議経過と来期への課題整理**を行うもの。

概 要

1. 文化芸術に資金が循環する方法

- **資金調達手法の多様化・複合化**が必要。（国からの補助金以外に民間からの投資を呼び込む方法の模索）
※ブレンデッド・ファイナンス、インパクト投資、寄附、企業版ふるさと納税等が活性化する仕組み作りの検討
- **文化芸術分野に係るインパクト評価**の仕組みの検討。
- 既存の寄附税制制度の周知及び活用促進。
- 文化芸術団体の資金循環の基盤となる全国規模のプラットフォーム作りが必要。（カウンスル機能の設計とも連動）

2. 場の活性化

- 建築物に対する規制・補助金行政の見直し。（**文化財をめぐる既存の規制の緩和や弾力的な運用**の検討。）
- **都市部と地方部で異なる建築活用施策**。
- 地域特性に応じた税制と自治体の役割。
- 人の営みが伴う建築物・まち並みの継承・創造の社会実装に向けた検討。

各WG報告等のフォローアップ

カウンスル機能検討WG

第1期報告書の内容を踏まえ、引き続き、

- ① 我が国の文化芸術活動に関する**情報の網羅的な収集と標準化**
- ② 各文化芸術団体への**伴走型支援**にかかる組織体制の**機能強化**
- ③ 補助金の付与だけでなく、それらの団体の文化芸術活動が経済との好循環のなかで**長期的に持続可能となる仕組み**の構築を3本の矢として重点的に推進することが必要。

アート振興WG

- 今後のアートの振興の観点から、「**理想の美術館**」※の姿を検討。
※①明確なミッション、ビジョンバリューの定義付け（再定義）、②組織構造の設計（再設計）、③財務構造と収益モデルの設計（再設計）、④広報とパブリックリレーションズ、⑤教育と社会貢献、⑥環境意識（持続可能な運営）
- その実装に向けて、**3つの多様化・多角化**（対象ジャンルの多様化／組織の多様化・多角化／収入構造の多角化）に取り組むことが重要。

3. 来期に向けた課題の整理

- **国レベルでのカウンスル機能の実装**に向けた施策の推進
※第一の循環（土壌づくり）の観点からだけでなく、第二の循環（価値づけ：文化芸術のグローバル展開）の観点も加味する必
- **グン**。バル展開のため、カウンスル機能に加え、関係省庁・機関の連携も含めた**体制・機能の強化**
- アーティスト・クリエイターだけでなく、そのマネジメントやプロデュース、ファンドレイジング、技術的支援等に関する**人的基盤の抜本強化（人材育成）**

第5期の検討テーマについて（案）

目指すべき世界観

- アーティスト・クリエイター等の文化芸術に携わる人々が、高い自律性を持って、創造力を最大限発揮し続けることが可能となる社会。
- **自律的・持続的な創造環境を支える仕組みとして、第一の循環（土壌作り）と第二の循環（価値付け）が生み出され続ける社会。**
- 文化芸術の価値が社会に理解されるよう、**主体的に社会に関わり、価値を発信し、資金を含めた支援を戦略的に獲得しようとする人々が評価される社会。**
- 公的支援の在り方も、上記の趣旨からの仕組みの構築や活動を促進する観点から考えられるべき。

施策の方向性

- 資金の循環・場の活性化・人材育成という3要素を中心として、文化芸術関係者の**自律的な取組を強化・促進する方向を目指す**ことが必要ではないか。
- 引き続き、関係者の**意識改革や民間主体の取組促進**等の施策を検討・推進するとともに、ナショナルレベルでの**アーツカウンシル機能**（自律的・持続的な活動促進の手段として「人」、「資金」、「情報・ノウハウ」が集まるカウンシル機能）の**構築・実装に向けた議論を本格化**していくことが考えられるのではないか。

〔想定される施策例（具体的検討事項の例）〕

- **関係者の意識改革の促進**
…シンポジウムの開催、突破事例・ノウハウの共有、意識改革を促す仕掛けの検討など
- **中間支援団体・機能の強化、民間事業者等の参画促進**
…自律的な循環の創出に向け、様々な立場からの多様な民間主体の参画を促す仕組みの検討など
- **助成金の分配・評価の在り方**
…活動の自律性・持続性を念頭においた分配・評価を行うために必要な事項（分配の仕組み、評価指標、人材、デジタルツール等）の検討
- **ナショナル・アーツカウンシル機能**（自律性・持続性を促進するための支援機能）の構築・実装
…必要な機能、それを支える組織・人材、リソース（資金・情報等）、外部機関・民間主体との連携、望ましい制度の在り方等の検討
（第1期カウンシルWG報告書や自律的・持続的運営促進事業の取組状況等も踏まえながら検討。）
- グローバルなレベルでの**価値付けの強化策**（外部機関との連携を含む）

第5期の想定するゴール

上記の「世界観」の実現に向けた方向性の明確化、具体的に取り組むべき事項についてご議論をいただき、関連施策の推進に当たっての考え方の土台となるご提言をいただく。

〔検討スケジュール（イメージ）〕

- ・本日（第2回）含め、全5回程度開催。
- ・第2回～4回まで関係者ヒアリングを行いながら、論点に関する議論を深めていただき、最終回で提言をおまとめいただく。